勤医協中央病院では以下の研究を行います。 本研究は機関の長の許可を受け、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記 「7. お問い合わせ先」までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

1. 研究課題名

院外心停止におけるサインオブライフ（sign of life）と転帰の関係について

2. 登録対象症例

2024 年 1 月 1 日から 2025 年 12 月 31 日の 2 年の間に病院外心肺機能停止となり、当院へ救急搬送された患者さん。

3. 研究期間

病院長承認日から 2028 年 3 月 31 日まで

4. 研究目的と意義

近代蘇生法が確立して約 60 年の歳月がたちましたが、いまだに病院外で発生する心停止の蘇生率は高いとは言えない状況です。蘇生が成功し心臓の機能が回復したとしても実際には多くの方が目を覚まさず、昏睡状態のままであることも少なくありません。以前から、心停止時や心停止蘇生中にサインオブライフ（sign of life）を認めることが知られていました。サインオブライフとは、臨床的に心停止であると判断されているにも関わらず、① 呼吸運動（死戦期呼吸と呼ばれます）、② 対光反射、③ なんらかの体動、を認めるものを指します。心停止蘇生中にこのサインオブライフを認めることは、脳の機能が部分的に表現されていると考えられ、蘇生が成功すれば、覚醒が得られる可能性が高まる方であることが期待され、より積極的な蘇生を検討すべきと考えられています。しかしながら、このサインオブライフの頻度は分かっておらず、蘇生における重要性がどのくらいのものかは明らかではありません。この研究の目的は心停止蘇生中に認めるサインオブライフの疫学（頻度、種類、出現タイミング）、およびそれぞれと予後との関係性について、救急隊活動中の記録や診療録の情報から明らかにすることです。

5. 使用する情報

・救急隊活動中サインオブライフ記録
・病院前記録（ウツタイン記録）
・患者情報（性別、年齢、救急隊時刻情報、覚知時刻、病院収容時刻　など）
・病院到着後記録（病院収容後の心拍再開、12 誘導心電図、中枢温度、身長・体重、病院収容後処置「除細動、気管挿管、体外循環、冠動脈造影検査、経皮的冠動脈形成術、体温管理療法」、心停止中薬剤使用、病着時血液ガス分析、患者背景、血液状態、積極的治療の中止の有無とその原因、心肺停止に至った理由、発症 1 か月後生存、発症 1 か月後の脳機能など）

6. 研究実施体制

機関名：札幌医科大学附属病院

研究機関長：札幌医科大学附属病院　病院長　土橋　和文

研究責任者：札幌医科大学医学部救急医学講座　助教　文屋　尚史

研究分担者：札幌医科大学医学部救急医学講座　教授　成松　英智

研究分担者：札幌医科大学医学部救急医学講座　講師　原田　敬介

研究分担者：札幌医科大学医学部公衆衛生学講座　教授　大西　浩文

研究分担者：札幌医科大学医学部医療統計・データ管理学　樋之津　史郎

～共同研究機関および研究機関責任者～

北海道大学病院　救急科：早川　峰司

市立札幌病院　救命救急センター：提嶋　久子

手稲渓仁会病院　救急科：奈良　理

国立病院機構北海道医療センター　救急科：七戸　康夫

札幌東徳洲会病院　救急・集中治療センター：合田　祥悟

勤医協中央病院　救急科：田口　大

旭川医科大学救急医学講座：丹保　亜希仁

市立函館病院　救命救急センター：武山　佳洋

済生会宇都宮病院　救急・集中治療科：藤田　健亮

前橋赤十字病院　高度救命救急センター：藤塚　健次

群馬大学医学部付属病院：市川　優美

岡山大学病院　高度救命救急センター：内藤　宏道

広島大学　救急集中治療医学：錦見　満暁

～研究協力消防施設～

北海道：札幌市消防局、旭川市消防本部、函館市消防本部、とかち広域消防局、釧路市消防本部、江別市消防本部、千歳市消防本部、恵庭市消防本部、小樽市消防本部、北広島市消防本部、石狩北部消防本部、南渡島消防事務組合、大雪消防組合消防本部

栃木県：宇都宮市消防局　群馬県：前橋市消防局　岡山県：岡山市消防局　広島県：広島市消防局

香川県：高松市消防局

7. お問い合わせ先

札幌市東区東苗穂 5 条 1 丁目 9-1

勤医協中央病院　救急科　担当：田口　大

TEL：011-782-9111（代表）

8. その他

学術集会の場や論文として発表します。その際も氏名、生年月日などあなたを特定できるデータは一切含まないようにします。